

令和 5 年度

歴史・文化探訪の会（報告）

去る 10 月 29 日(日)に実施した第 35 回探訪会「清洲城下町散策とあいち朝日遺跡ミュージアム、キリンビール名古屋工場見学」について報告します。

穏やかな探訪会日和のなか、9 時 40 分、参加者 10 名が新清洲駅に集合し、始めに、清須市ガイドボランティアの会の 3 名の紹介と挨拶後、ガイドを先頭に駅を出発し探訪会を開始した。

ガイド挨拶の中で、清須越し迄と清須市誕生以降は「清須」の字を、この間の期間は「清洲」の字を使用しているとの説明があった。

駅を後に 10 分ほど歩き、五条川の右岸の長者橋の西側に到着した。清洲越しで名付けられた名古屋の長者町は此所に由来するようで、この辺り一帯の土地を所有していた江戸時代から続く旧家の母家が、現在も「長者橋東」交差点の南東角に建っている。

清洲越しは、名古屋城が完成した後の慶長十七年（1612）～元和二年（1616）に行われ、尾張の中心地だった清洲の武家屋敷、寺社、橋、町屋、門までも移転した。

長者橋から五条川右岸堤防道路を遡り、暫くして五条橋に到着した。五条橋は室町期、斯波氏の時代から架かり、名古屋堀川に移されるまで、「御城橋」の役を果たしてきた。

清洲越しの後、美濃路の宿駅として清洲が復活すると、旅人の往来が著しくなり、五条橋は何度も改築された。現在の五条橋は平成 8 年（1996 年）に完成、擬宝珠の親柱と銘文はそのまま復元、大改修によって左岸（東側）が大きく削られ、旧五条橋の 2 倍近くも長くなった。

五条橋を後にこれより美濃路に入り西進し、洪福山清凉禅寺に到着した。寺入口の常夜灯、山門上層の鐘撞堂（1712 年以来宿内に時を告げた時鐘が今も残っている）などを見学した。この付近は美濃路清洲宿の中心地で、鍵形の曲がり角には高札が立ち、「札の辻」と呼ばれた。津島への分岐を示す道標が最近まで残っていた。そこから北進、清須宿の本陣跡に着く。

本陣は将軍上洛、大名参勤、朝廷の勅使、朝鮮・琉球使節、お茶壺の参府、また、大象の下向などの宿泊所として使用された。明治 11 年（1878 年）には北陸東海巡幸中の明治天皇一行の休息場所としても使用されたが、残念ながら明治 24 年（1891 年）の濃尾地震でほとんどが倒壊し、現在はその後 2/3 の大きさで再建された正門のみが残っている。

本陣跡から北上し東に折れ美濃路を離れ、清洲公園に到着した。この公園は、大正 11 年（1922 年）に開園し、その一角に「織田信長と濃姫の像」がある。信長像は、ここから出陣して向かった南の桶狭間の方角を向いていると言う。

清洲公園を後に五条川に沿って東海道新幹線と東海道線の下をくぐり、大手橋の西端、「清洲ふるさとのやかた」前に到着した。橋の東正面に、平成元年清洲町の町制 100 周年を記念して造られた「清洲城」が見える。ただ、旧清洲城跡は橋の西側にあり、大部分は消失し本丸土塁の一部が残るのみとのことである。ここでトイレ休憩、復元された石垣の一部を見学、復元清洲城をバックに記念撮影も行った。

その後大手橋を渡り、清洲城模擬天守閣に入場し、清須の歴史を紹介する展示・映像などを見学した。

ここで午前中の見学を終わり、徒歩 5 分、昼食会場の中華料理店に到着し、30 分ほど昼食休憩を取った。

昼食後、徒歩 10 分、午後の最初の見学地「あいち朝日遺跡ミュージアム」に到着した。館内に入り、係の方の案内で、始めにアニメ映像やジオラマ（弥生時代の生活の様子や集落の全体像を再現）を見学し、朝日遺跡の説明を受けた。

「朝日遺跡」は、弥生時代前期から古墳時代前期まで営まれた東海地方最大の弥生集落で、逆茂木や乱杭などの強固な防御施設が全国で初めて発見され、最盛期の 2,200 年前には、面積およそ 80 万平方メートルの土地に およそ 1,000 人が暮らしたとされている。日本最大級とされる吉野ヶ里遺跡(佐賀県)に匹敵するとのことである。

その後、館内の展示物（尾張地方特有の円窓付土器・銅鐸・勾玉・農具等の出土品）を順次見学した。その後館外に出て、「朝日むら」の入口の 2 本の柱（上部に鳥、鳥居の始まりか）の間を通り、復元された当時の竪穴住居・高床倉庫、水田、環濠、貝塚などを順次見学し、弥生時代の生活を体感した。

同じ敷地にある貝殻山貝塚交流館にも入り、貝層の断面や第 3 貝塚から発見された弥生時代の 2 体の人骨等の展示を見学、特別にバックヤードの貴重な資料も見学させてもらった。朝日遺跡の見学を終わり、タクシーで移動、本日最後の見学地「麒麟ビール名古屋工場」へ向かった。

最初に待合室で「会社のイノベーションの歴史と一番搾り」についてビデオを見学した。その後案内係の先導で、麦芽の試食やホップの香りを体験、麦芽を煮込んだ麦汁の一番搾り麦汁と二番搾り麦汁の飲み比べも体験した。さらに場所を移動しながら、ホップを加えてビール独特の香りと苦みを引き出す仕込みの工程とそれを行う仕込み釜、麦汁に酵母を加えて行う発酵の仕組み、風味と香りに仕上げるための貯蔵、ビールを容器に詰めるパッケージング工程等、説明を受け見学した。最後に試飲コーナーにて、できたての生ビールを試飲し、工場見学を終了した。

その後、工場の送迎バスで JR 枇杷島駅へ、挨拶後探訪会を終了した。

